

令和元年度 第3回

太田市美術館・図書館運営委員会 摘録

◆日時 令和元年7月7日（日）午後2時00分～午後4時10分

◆会場 太田市美術館・図書館 3階視聴覚ホール

◆出席者

【委員】 尾崎委員長、川上委員、杉浦委員、住友委員、鳥塚委員、
花井委員、森委員

【事務局】 山崎館長、空井館長補佐（管理係長）、富岡館長補佐（学芸係長）、
岡村係長代理、星野主任、小金沢主任（学芸員）

【文化スポーツ部】 長谷川部長、城代副部長

◆議題 ①2018（平成30）年度事業報告について
②2019（令和元）年度事業概要について
③その他

◆配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ （資料1）平成30年度 事業報告
- ・ （別冊）太田の美術 vol.2 「飯塚小玕齋展」 事業報告
- ・ （資料2）2019年度 事業概要
- ・ （資料2-1）本と美術の展覧会 vol.3 「佐藤直樹展：紙面・壁画・循環」
- ・ （資料2-2）2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
- ・ （資料2-3）図書館イベント2019 報告書
- ・ （資料2-4）図書配架移動図
- ・ 太田市子ども読書活動推進計画
- ・ 図書スタッフ勉強会アンケート結果
- ・ 第2回運営委員会 委員からの意見・提案に対する対応状況

◆会議の内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 運営委員会

(1) 議題

議題①「2018（平成30）年度事業報告について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

新規収蔵作品は前回の報告にさらに加えて、今年度収蔵されたものか。

【事務局】

3ページの収蔵作品は、前回の中間報告のときと同じものになる。

【委員】

収蔵品はそうすると何点になるのか。

【事務局】

10点くらいになる。

【委員】

今後、新規収蔵の可能性はあるか。

【事務局】

現在のところ、予定はない。評価委員会の立ち上げについては受け皿ができ、市、美術館として必要な作品が出た段階で評価委員会を作りたいと考えている。

【委員】

例えば、地元の関連の作家でご遺族がなくなった作品をどうしようかと、もし相談に来た場合どういう対応をするのか。

【事務局】

正田さんのときは、展示させていただいた作品でもあったので、評価委員会を立ち上げずに近隣の評価を基に、こちらの独自の判断で寄贈いただいたところである。担当からも評価委員会が必要ではないかという意見は出ている。ただ、我々としても研究していかなければいけない部分もあり、そういった作品が市、美術館として必要だという段階で立ち上げるような考えではいる。

【委員】

以前のそういう方たちの作品もあり、話が次々に来る可能性があるので、どういふ対応していくのかを決めておいたほうがいいと思う。作品自体は地域の文化的な資産で、ある程度行政が責任を持つという方向性で、学校とか他の施設で持っている作品の扱ひも含めて、対応の仕方を考えたほうがよい。

【事務局】

1回目の運営委員会のときに、我々とするところの運営委員会の中でできればというお話しをさせていただいたが、なかなか難しいという意見をいただき、その後どうしようかというところで動かない状況である。

【委員】

それこそ運営委員会を作らなくても、例えば県立美術館と話をしておいて、作品を収められるようなルートを作るとか、いろいろと対応の仕方は考えられる。知っているかと思うが、桐生市の新井淳一さんの家が燃える直前に大川美術館に作品が入り、損失を免れた。残すべき作品に関しては残す方法を検討しておいたほうがいいのではないか。委員会を立ち上げるのはその後でも構わないと思う。

【委員】

美術館・図書館ができる前からいろんなところに美術作品が寄贈されているが、一時的に飾ったのちに倉庫に入れてしまうとどこにいったのかわからなくなってしまう。データベース化し、評価委員会できちんと評価して、しかるべきところで保管するのがよい。

【委員】

バブル期に建てた建物が建替え期にあり、地域の資産を一緒に壊してしまうという問題が、京都とかいろいろなところであり記事になっている。それを防ぐためにも、人をつけてきちんとデータベースで管理するのもいい方法だと思う。この時期、どこで頻発してもおかしくない。

【委員】

長野県小布施町では、中島千波館という美術館とまちづくりが一貫していたので、図書館事業として文化庁から助成をもらい中島千波氏のデータベースを作り、ネットワークを使って図書館から発信していくようにした。ここは美術館と図書館が一緒になっているので、そういう事業展開もあるのかなと思う。小布施町の図書館のHPにリンクが貼られている。

【委員長】

太田の収蔵品に限って言えば、合併前なので、10年以上前、社教センターで作成した収蔵品リストがまだあると思うので、それを基にして作り直すやり方もあるのでは。

【委員】

先ほど飯塚小玕齋の事業報告があったが、年配の方は、飯塚小玕齋を知っているが、若い人はたぶんあまり知らない。学校の子どもたちを連れて来れば、地元人間国宝がいたことを知って、地元愛着がわくのではないかと思う。それから、展覧会で若い人を増やしたいという話があったが、有料で500円というと、他の美術館と比べるこのキャパシティでこれだけの作品でもう終わりというイメージが強いのではないかと思う。このキャパシティを増やせと言っても無理なので、企画にもよるが例えば、駅なか文化館と連携する使い方も今後あるのではないかと思う。

【委員】

太田の人たちのために美術館・図書館があり、太田の子どもたちとか若い人が来てくれて、太田を出ていっても戻って来るところが、一番重要かなと思っている。そういった目でデータを見ると、来館者数の298,911人の中で、0歳から22歳、いわゆる乳児から大学生になるまでの人数の割合を特別に数値化し可視化してもいいのではないかと思っている。その人数を増やすことを一つの目標とするのはどうか。それと飯塚小玕齋の展覧会についてもアンケートを見ていると総観覧者数が4,414人で、高校生以下が220人、一般の中に大学生が入ってしまっている。乳幼児と児童、生徒、学生の部分の太田の将来に直結してくる人たちが何人来てどういう考え方を持ったのかが見えてこない。0歳から社会に出るまでの人たちにどれだけ私たちが資することができるかということを実際に伝えられるべきデータを量的、質的両方で取ったらどうか。

【事務局】

今回の展覧会からだが、10代以下のわけを細かくして、高校生とか、もう少しそういう細分化された意見が、これからいただけるかもしれないと考えている。アンケートをどのようにしたらいただけるかを考えていかないといけない。

【委員】

若い人たちに来館してもらうために、何かしらのインセンティブがあっても良いかなと思う。ミュージアムグッズなり、カフェのソフトクリームなり、何がいいのかわからないが、10回来場し、10個スタンプが貯まったらソフトクリームが食べられるとか。ちょっとやる価値はあるかなと思っている。

【委員長】

大きく美術品のデータ化と、アンケートとか利用者の方の声の集約の仕方を今後検討していただければと思う。

議題②「2019年度事業概要について」

事務局が資料に基づき説明を行った。

【委員】

図書館の予算が出ていないのだが。

【事務局】

図書購入の予算は昨年と同様に 880 万円となる。

【委員】

佐藤直樹展を見て、実際に彼が考えてきたことを説明するうえで貴重な展覧会だと思う。本と美術という切り口を掘り下げていくところはあると思うのだが、870 万円でかなり大掛かりな展示もやっているが、委託費が 650 万円とかなり大きい。内訳がわからないが、現場的には十分なのか、多少あきらめているところがあるのか。このオリジナリティーという点で注目はされているかと思うので、その辺をちょっと聞きたい。

【事務局】

予算は今 870 万円程度の中で十分かと言うと必ずしも十分ではないところはある。展示の内容にあわせて、予算等も考えてながら、今回の展覧会になっているが、特に、600 万円ちょっとの委託費の中で大きいところが、造作施工費が今回かなりの部分を占めている。作品を展示するための木の構造を作る施設とか、実際に佐藤直樹さんに新作を作っていたいでいるので、そのための材料費、制作費などもその中に含まれている。また、スロープのところの本とか、雑誌を印刷して展示している部分に関しても、かなり高解像度の出力をしているところがあるので、その辺もお金がかかっている。ただ、佐藤さんともその辺の話をさせていただきながらその中で何ができるかというところで、最終的にあのようなかたちになっているので、あれが不十分だとは思っていない。ただ、どうしてもコレクションがないとか、展覧会の展示室の中で、可動壁がなく、通常ある壁だけで、作品を展示するにあたっては、場合によっては壁を建てるとか、構造を作る必要がある。それがどうしても展覧会ごとで 200 万円から 300 万円が施工費としてかかってくるところがある。その他に 600 万円の内訳としては、輸送費だったり作家あるいは今回アーツ千代田 3331、佐藤さんが関わっているアートセンターの方に図面を引いてもらったり、あるいはデザインをしてもらったり、かなり大きなところでかかわっていただいている、それらの方たちに対する支払いが主なところになっている。それも実際はこれくらいの金額だと無理を言ってお願いをしているようなところも若干あるので、900 万円前後くらいあれば、佐藤直樹さんのこれくらいの、これまでの本と美術の展覧会の規模的にはこれくらいの 900 万円前後から 1000 万円くらいで開催していたので、それくらいの予算があるとこれまでの規模くらいのものでできるかなというところがある。100 万、200 万、300 万円下がったときに今後どうなるかなというところが現実問題としてあるかなと思っている。

【委員】

若干目安より少なく今回できたのは佐藤さんが大学の先生やっているとか協力関係の力

があったからか。

【事務局】

さすがに持ち出しはしていただいていないが、アーツ千代田 3331 の中でお願いする例えばコーディネーション費的なところはかなり圧縮して、普段だとこれくらいだと難しいのだけどもというのを聞きながら、無理を伝えている。

【委員】

これは切り口として大事で、絵を借りてきて掛けるだけじゃない展示にどうしてもなると思う。複製したり映像にしたりとかそういう工夫が必要になるジャンルなので、もしかしたら、全般的にきついなという気がした。来年以降、誰を取り上げるとか目安はついているのか。

【事務局】

現実問題として、予算が確定していない中で、計画を進めるのが難しいところがあり、まだ、具体的に来年内容がどうというのはできていない状態である。

【委員】

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展だが、基本的な企画は JBBY で作っていて、先ほど説明があったように日本各地の 4、5 館で毎年巡回している。図録と展示物関係は全部共通で作っている。初めて行うということで、本当に小さい子どもが初めて出会う美術の展覧会、小さいお子さんが楽しめるものであることを、1 回目にぜひ強く打ち出し、学校が見に来るようなシステムをなるべく早く作ってほしい。小学校が、社会科見学として必ず毎年この展覧会を見に来て、小さい子どもが初めて美術に出会うための展覧会である位置付けを早く根付かせると長い目で見ていい企画になると思うのでよろしく願いしたい。

【事務局】

その点については、今年度、初めて行う展覧会になるが、学校にこういう事業があって団体観覧ができるということを次の校長会のほうに報告したいなと思っていて、タイミング的に学校のほうで間に合うのであれば、授業の一環として入れていただければありがたいと思っている。

【委員】

板橋区でやっているのが、すごく成功例で、他の地域でなかなか浸透していないところもあるので、地域と学校をいかに取り込むかで全然違ってくると思う。

【委員】

学校側にしてみると、2 学期は非常に行事が多く、3 学期になってからのほうが低学年はゆとりがある。ただ、早く言えば、図工の担当が興味あって、行ってみようかなとなるのではないかな。あとは生活科の社会科見学を展覧会にあわせてもらえれば、無理なくできると思う。イタリア・ボローニャ国際絵本原画展は私もすごく楽しみだが、日本の絵と外

国の絵は色使いも違うし、文化も感じられる。これもただ展示をやりますというだけではなく、例えば、こういうところの授業の一環になると思うとか、そういうPRをしてもらえると、校長先生もちょっと行って見たらとか、いい作品が来ているから本物を見せたらという感じになると思う。それから、子ども鑑賞ツアーのときに絵の見方などあまり難しくないのでいいので言ってもらおうと子どもも喜んで見る。

【委員】

去年から都立の高校と、国語と美術の授業の連携でプロジェクトをやっているが、国語の先生との連携は有効だと思っている。国語の鑑賞は、教科教育の中では、美術鑑賞よりも歴史があり、そこに美術が入るとするのはすごくいいと思う。今回のプロジェクトでは、内田あぐり先生の教え子である日本画家の作品と本人と一緒に学校に行ってもらって、高校一年生の授業で古文の短歌と日本画を組み合わせる授業展開をしている。そういう人材がどれくらいいるかがわからないが、もしリサーチできれば、コミュニケーションを取り、どこか良いタイミングで試してみたらと思う。佐藤さんの展覧会でも、日程的に厳しいと思うが、インリーチではなくて、アウトリーチで学校現場に行ってもらえると若い人たちには刺激になる。それから、この美術館・図書館の記録の件だが、ほとんどが静止画で記録されている。静止画は誰でも取れるので一番楽なのだが、動画の記録がどれくらい撮られているか伺いたい。

【事務局】

動画の記録は、イベント的なものであれば、ビデオカメラを回しているが、展覧会レベルでは基本撮っていない。

【委員】

5分くらいで構わないので、撮っておいてつなげるだけでも、太田市の美術館・図書館の生き生きした感情を伝える動画ドキュメンタリーができると思う。議会とか市民の方にもますますアピールをしていかなければなくなる。それから、視聴覚事業のところでプレミアムフライデーの上映会をしているが、乳児のために美術館が、何ができるかという研究の関係で、東京都写真美術館で0歳から3歳までの上映会に参加してみた。そこは結構広いホールで、収容人数が150~200人弱くらいだったが、ほぼ8割は埋まっていた。0から3歳設定だと上映会は泣いても構わないってことになる。東京都写真美術館ではおもしろくできていたので、太田でもどうかと思う。

【委員】

美術館の中で教育普及というのをこの施設はどれだけ制度設計として積極的にやっていくのか。教育普及、まちづくりなどどれもできないと思う。何に対して評価をするのか、こういうことをやっていれば評価するというのを、一致させておいたほうがいい。3年目で既に事業費の500万円が落ちているが、これまで市の評価はどのようなものだったのか。

それが明確になっていて、評価するところとしないところがあって、予算に反映させるといのが正しいやり方なのだが、その説明がないまま変わっていくというのはよくないことだと思う。先ほどのアウトリーチとかそういった活動を求めていくのか、これまでの評価する方法が市の中にあるか。

【事務局】

市の中の評価というか、一つは市民の評価というのは、自治体なので、毎年行っている。それはここの美術館・図書館だけではなく、全体になるが、その中に芸術文化という項目もある。そこで市民の方から無作為抽出したアンケートを実施し、その中で評価してもらう。それが重要であるか必要であるかというような評価の仕方、今だと大きな枠での評価しかなくて、事業一つ単体の評価といったところまでではない。

【委員】

そのやり方が適切かどうかはともかくとして、そこではどういう評価なのか。

【事務局】

若干重要度は低い、芸術・文化というのは全体からすると低い。福祉などが一番重要だと市民のアンケートの中では大きく出てきて、芸術文化は平均より若干低いと出てきているのが今の状況である。

【委員】

たぶんそのやり方は既にほかの自治体でも散々検討しているやり方で、一般市民レベルでいくと自分の生活に直結するものが重要となるので、文化の公共性はどうしても低くなる。先ほどから幼児と言っているのは、文化の重要性は直接的なものではなくて10年後、20年後に現れるものだとすると、たぶんその指標を使うのは違うものである。何十億をかけて作った施設をどうやって維持していくのか、簡単に減らしていくというのがあまりにも多すぎて、それはもう箱モノと言われて20、30年前に批判されている。同じことを繰り返さない評価の仕組みはだいぶ研究されているはずなので、ぜひ手法を学んで、どうすれば市民にもお金をつけることが正当化されるか研究してほしい。ここに注力するということはちゃんと人もつけるしお金もつけるということも考えていかなければいけないと思う。何となくアンケートとかで評価していくとするとちょっと問題がある。4つの柱で予算と計画を作っていく、そういう感覚でいいのでは。ぜひ、これを実現するためには種々予算をつけていただいたほうがいいと思う。本当に減らすのは簡単なので、ぜひソフト、この4つの方針を掲げて、うまく維持していただければと思う。

【委員】

佐藤直樹さんに続く人が決まっていなと言われてまさかと。ここでできることは美術館・図書館だからすごく生きているのに次が決まらないのが、予算的なことというのは考え直さなくてはいけない。他のところではやらないような企画であるし、せつかく美術館

と図書館がついているのだから、このところだけでも予算を潤沢とは言わなくても、キープして、どこかにしっかりと予算を充てられるようにしていかないと、将来的に何もかもできないような感じになっていくのではないか。ここだけは守るのだという美術館・図書館ならではの企画、そこは絶対予算は落とさないという覚悟はいるのではないかなと思う。

【委員】

単年度予算で議会成立しないと動けないということはない。展示会の準備はどうしても2年、3年かかるものもあるから、それはないようにしてもらいたい。

【委員】

なんかの本を絡めて美術にたぶんいけるだろうなというのは紹介したいものがあるって、今日も話して帰ろうと思うが、ちゃんと企画してくれて、紹介しやすい館になってほしいと思う。

【委員】

26パーセント県外から人が来ているというのはこれだけの人がやっているからというのはある。

【委員】

図書スタッフ勉強会のアンケート結果で、基本的に図書館はどういうことをしているのかを知りたいというのは、司書じゃない人が多いからだと思うが、一般的な図書館は、それとして、やっていること自体が美術館と図書館という稀にみるおもしろい企画をやろうとしているところだから胸を張りなさいと言った。今「ニューヨーク公共図書館」という映画をやっているが、全員見たほうが良いと思う。昨日、一昨日で終わったが、渋谷と恵比寿どこかが追加上映が決まった。実際図書館が持っているパワーが表現されている。パーツパーツを取るとどんな図書館でもやらなければいけないと思っている。僕らからすればあの映画で言っていることは当たり前のことだと思っているが、それすらやっていない日本の図書館事情がある。図書館が変わるブームが来ると思う。2000年ちょっと前に図書館が変わるブームが1回来ている。また、この映画で来るのではないかなと思ったときにスタッフ特に経営されている皆さんが見ておかないといけないものだと思う。それが一つの新しい美術館・図書館がやることを考えさせられる一つの目安になるのかなと。

【委員】

美術でも図書館でも、他の施設に行く研修はモチベーションも変わる。全国美術館会議に加入されたと思うが、全国美術館会議の良さは研修会が充実している。ぜひ参加していただき、仕事のスキルを磨いていただきたい。

【委員】

前回、ボランティアの方も含めて図書スタッフが、悩みとかを話し合ったりコミュニケ

ーションをする場があったらいいのではないかという話が出ていた。図書スタッフの方も開館して2年ということで、研修会で問題や悩みが話し合えてよかったと。ボランティアの方もこういう研修会はあるのか。

【事務局】

今月、交流会ということで開催する。図書スタッフも自分の中でもんもんとしているものがあつたが、研修で自分が先に進むきっかけになったという意見もあつたので、研修はとてもよかったと思っている。

【委員】

基本的なことだが、こういう対応状況みたいなこういうものがホームページとかに出るのか。

【事務局】

議事録を摘録の状態ホームページにアップする予定ではいるが、まだそれが実現できていない。

【委員】

非公開にしないで、ぜひ公開してほしい。先ほど設置者責任のことを言ったが、ブラックボックス化されがちである。どうやって運営しているのだろう、どうやって意思決定しているのだろうと。そこに政治参加と同じだが、関心を持っている人が多いと思うので、議事録を読んで、議員さんでも市の方でも関心を持ってもらうことは大事なことである。

【委員】

議事録の公開義務はないのか。

【事務局】

最初に考え方という中では議事録は名前を伏せて公表させていただくということで、話をさせていただいているのだが、こちらのほうがまだそこまで追いついてなくて、ホームページに載せられていない状況である。議会、市の公開義務はなく、自主的にということになる。

【委員】

いくつか評価委員をしているが、そこでは委員の名前を挙げて、全部ホームページに公開されている。ここは評価ではなくて、運営委員会ということで違う立場かなと思っているが、公開したほうがいいと私も思う。

【委員】

たぶん記者くらいしか来ないが、傍聴ありにして会議自体を公開してもいいと思う。そういう態度でやるというのはすごく大事じゃないかなと思う。

【委員長】

他に今回の事業概要、事業計画にこだわらず今後の運営の在り方について、参考になる

話しとかあればぜひ出していただきたい。

【委員】

太田市子ども読書活動推進計画は、文部科学省からも出ているのか。私が学校に勤めていたときに子ども読書活動推進計画が文部科学省から5年計画くらいで出ていて、またそれを受けて太田市も作ったのか。

【事務局】

県のほうから5カ年計画が3版になっている。太田市のほうは、今回が初めてになる。教育委員会が主体で作成しているが、その中で図書館部門の内容もあるので今回は参考で配布した。

【委員】

学校は、予算がすごく少ない。太田市は、在籍の子どもの数かけるいくらかで予算配当がされているが、それにしても新しい本が少ない。新聞の字が小さかった時代の本を処分して、新しい本を、少しゆとりを持って配架しようと言っている。そうすると子どもが借りる本がなくなってしまうので、そのときに新しい本が入っている公共の図書館が学校と連携を取ってくれるといいなと思っている。それから図書館フェスティバルや去年のバリアフリー図書展などすごくいい事業をやっているが、子どもは知らない。先ほど話があったように待っているだけではだめで、自分から出向くこともすごく重要だと思っている。

【委員】

全国美術館会議に加入するとパスワードをもらって過去の全国美術館会議の資料にアクセスできる。その中に災害対応とか、いくつか新しい施設だと整えられていない部分のマニュアルとまではいかないが、いろいろな文化施設の対応方法が出ている。著作権の問題とかその辺もいい勉強材料になる。館の規模も違うので、その館ごとにカスタマイズすることが大事で、災害対応なんていつ事故が起きてもおかしくないのだから早めに活用する方がいいと思う。特に中小規模館連絡会議というのが確かあるので、そこに上がっている情報がかなり有効じゃないかなと思う。

【委員】

先ほどの学校の連携の話だが、優秀な図書館は企画をする担当者が学校へ出向いて先生にプレゼンしている。経営者が行くのではなく、ただチラシを配るのではなく、校長先生、教頭先生、担任の先生を捕まえてネットワークを作ろうとしている。会社のオーナーさんのところに行ってこういうビジネス支援があるから来てくださいというのをして、個々に営業をしている館がやっぱり人が来ている。そういうのをやっぱりしていけないと図書館の人は図書館の中にしかいないのだと。外に出ていなくないと待っているだけになっちゃうとよく言われているので、ここもよくしてほしい。

【委員】

ちょっと頼まれて、東京のほうの図書館に行ったことがある。指定管理されている図書館は、かなり学校とかいろんなところに出向いているというのを聞いて、ずいぶん太田市とは違うと感じた。自分も授業をしてもそうだが、できた人は持ってきなさいではなくて、自分が子どもの間に入って行って、その場で丸をつける、自分のほうから子どものほうに出向いていく。ちょっと例えがいいかわからないが、そういうのは子どもの意欲がものすごくあがる。ずっとぞろぞろ待たせるのではなくて、できたそばからどんどんこちらが出向いて行って評価していく。そういうのは、同じなのかなと思う。

【委員】

組織の状況がわからないのではっきり言えないが、嘱託、臨時職員の方が多いのか、裁量権は持てないと思うが、どれくらいの融通をきかされているのか。先ほどのアンケートを見たときに上長の判断をまたなくてはいけないというのがいくつかあった。自分の判断を聞かないと動いちゃダメと正規職員が言っているわけではないと思うが、臨時職員だとあまり飛び出たことができないとか細かいところがあるだろうと感じるので、それも変えていったらいいと思う。それから地元の人どうしの近所付き合いみたいな感じで、施設を利用している高校生とかに学校にポスター、チラシを持っていくようお願いするとか。市の施設だから難しいかもしれないが、もしそうなるとう田市の文化施設がもっとよくなるかなという感じはしている。

議題③「その他」

- ・事務局が2019年4月に策定された「太田市子ども読書活動推進計画」について資料に基づき説明を行った。
- ・事務局が第2回運営委員会で委員からいただいた意見、提案に対する館の対応状況について資料に基づき説明を行った。

【委員】

図書館研修は群馬県立図書館でも積極的にやっているはずなので、各県がやっているの、問い合わせをして派遣してもらうのがいいと思う。

【委員】

美術展の有料、無料だが、有料でやる展覧会の場合で招待券はどれくらい配っているのか。

【事務局】

招待券は今回の展覧会で3000枚くらい刷っている。

【委員】

たぶん行政によっていろんな方針があると思うが、実際の入場料収入は少なくてもいいから、とにかく入場者数があがったほうがいいので招待券をたくさんばらまく方針のとこ

ると、やっぱり、現金の収入がある程度必要であるというのとだいぶ違うと思うが、こちらはどっちかというところはどういう方針か。

【事務局】

招待券もある一定量以上は出さないと決めているので、ばらまくという考え方はない。

【委員】

ときどきお店とかに渡すと本当にばらまいてしまうお店があるので、ちょっと気をつけたほうがいい。ちゃんと知り合いの人に渡してくださいと。そういう渡し方してやるほうがいいと思う。特に新しい施設の場合は、はじめてそれで行くという人がいるのはいいことだと思うので、積極的にまくのはいいと思う。

【委員長】

今回委員からいろんなご意見、ご提案をいただいた。ぜひ、今後の運営に活かしていただければと思う。

4. 開会